

しわネット

No.733

2007

12

平成 19 年 12 月 12 日発行
岩手県●紫波町
〒028-3390
紫波町日詰字西裏 23-1
印刷・川嶋印刷株式会社



11月29日(いい肉の日)に「安全な豚肉」をPRするため、JAいわて中央養豚部会が無償提供した町内産豚肉入りのカレーが、町内全小中学校の学校給食に登場！この日は、生産者の顔が見える食育給食として、同部会の生産者が星山小と水分小を訪れ、児童と一緒に給食を食べながら交流しました。大きく角切りにされた豚肉は「甘くて柔らかい」と好評でした。



おいしい食で師走の寒風をはね返す

一緒に考えようまちづくりのこれから 特集1
園児たちとふれあいながら

特集2 保育士さんのお手伝い 03

母親にやさしい子育て支援 06

環のくに「循環型のまちづくり【18年度実績報告】」 12

栄誉・功績の紹介 16

元気はつらつ健康メモ「肝がんの予防」
～肝炎ウイルス検査を受けていない人は要注意～ 17

除雪作業作業のお知らせ 18

行ってみよう「山屋館経塚」 20

年の瀬を迎えて

今年も残すところ十日余りとなりました。一年を振り返ってみますと、三月定

二十三人のメンバーで公民連携推進協議会を組織しました。

当町の公民連携は、紫波中央駅前の公共用地一〇・七ヘクタールの一部を民間の収益事業に供し、その利益で図書館などの公共施設を建設するもので、今までは役場など「官」が

中心のまちづくりでしたが、町民や企業などの「民」と連携して事業を進めるものであります。

町有地は町民の財産ですので、進め方として、町民の皆様には詳細にわたり説明し意見を集約することが大切ですし、情報公開のもとに議会とも議論を交わし方向を定めてまいります。

九月十七日に発生した大雨災害は、平成十四年七月のそれを上回るものであります。復旧には全力で取り組みんでいるところであり

ますが、被害に遭われた方々には心からお見舞い申し上げます。今後の予防策としての築堤などについては、長期計画に基づいた運動展開が必要であります

り掲げ、これまで多数の町民参加で「協働」を進めてまいりましたが、より一層の参加を明確にできるように条例化したものであります。

いずれも重要な案件でありました。多くの皆様のご協力に感謝申し上げます。来年こそ災害のない平和な新年を迎えられますことを願ひ、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

藤原 孝

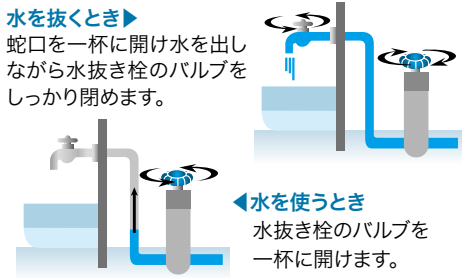
水道を凍結から守りましょう！

凍結を防ぐには

夜間、あるいは外出などで長時間水道を使わないときは、水抜き栓を操作して凍結の原因である水を抜いておきましょう。

水を抜くとき▶

蛇口を一杯に開け水を出しながら水抜き栓のバルブをしっかりと閉めます。



▶水をを使うとき

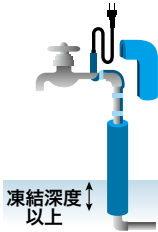
水抜き栓のバルブを一杯に開けます。

注意

水抜き栓が半開きだと凍結や漏水の原因となります。水抜き栓の開閉は確実に最後まで行ってください。

水道は気温が氷点下4度以下になると、凍結により水がなくなるおそれがあります。寒さに備えて水道を正しく使い、冬期間の凍結を防ぎましょう。

また、水道やボイラー、給湯器に電熱線（ヒーター）があるものは、必ず電源を入れておきましょう。



水道を凍らせてしまったときは

蛇口付近などの凍っていると思われる箇所にタオルをかぶせ、その上から「ぬるま湯」をかけます。ぬるま湯が用意できない場合は、ヘアドライヤーなどでゆっくり暖めてください。ご自分で解凍できない時や、水道管が破裂した場合は、紫波町指定給水装置工事事業者による早めの修理をお勧めします。アパートなどの場合は管理人や大家さんに連絡の上、依頼してください。修理にかかる費用はご自分の負担になります。

町指定給水装置工事事業者（町内）

(有)小田島鉄工所	☎673-7655
(株)遠山産業	☎676-4111
橋建設(株)	☎672-4411
(有)加藤水道工業所	☎672-3226
小田中水道工事店	☎673-7910
(有)藤水道設備	☎676-3000
(株)富岡鉄工所	☎672-2303
佐々木建設(株)	☎676-2800
(株)小松組	☎676-3163
アクア工機	☎672-4103
(有)山下タイル工業	☎672-2404
北東建設	☎672-3939
(有)丸尚建設	☎676-4130
(有)栄和工業	☎672-5085
(株)十文字組	☎672-2336
(有)笹原組	☎671-1711

町外の指定業者や詳しい内容は役場のホームページをご覧ください。

<http://office.town.shiwa.iwate.jp/>



シリーズ特集 第8弾

一緒に考えよう!
まちづくりのこれから

学校と家庭以外に、社会と関わる機会が減っている現代の子どもたち。社会に役立つ生き方や、自分の進路を見つけにくくなっています。そのため、働くことの意義を知り、将来を考えるきっかけを作る「キャリア教育」が重要視されています。今回は、片寄小学校の6年生が行った保育園訪問の様子取材しました。

園児たちとふれあいながら 保育士さんのお手伝い

～保育園で体験する、キャリア教育～

片寄小学校
6年生の
みなさん

紫波町の南に位置する町立片寄小学校（工藤テル校長、児童数八十八人）。毎年、6年生のみなさんは総合学習の一環として、養護老人ホームや保育園へ体験学習に向かいます。そこで、年代の違う人々や学校とは違う社会にふれ、仕事の大切さと喜びを体験します。今回は、保育園に向かう九人の子どもたちと同行しました。





まずは、園児を前に自己紹介



用意してきたエプロンをつけて
いざ仕事体験



出発前に絵本や折り紙を準備

**準備は万端
さあ出発!**

ようしく
お願いします!



ネームプレートを配る小笠原園長

まずは、教室であやとりや 折り紙の練習

この日、六年生十七人の教室では、朝からみんながあやとりや折り紙を練習し、また絵本の準備をしていました。今日は八人と九人の二つのグループに分かれて、養護老人ホームと保育園へ訪問するのです。

九人のグループは、上平沢地区にある「虹の保育園」へ。そこで六年生の子どもたちは、保育士さんと一緒に園児に折り紙を教え、絵本の読み聞かせなどをします。つまり、保育士さんたちのサポートをしながら、その仕事を体験するのです。

準備を終えると、子どもたちは元気に教室を飛び出し、バスに乗り込みました。

園児たちの大歓迎ぶりに びっくり

子どもたちが「虹の保育園」に到着すると、小笠原久子園長が出迎えてくれました。

まずは園長から、「そら組」「つ

き組」「つばさ組」「にじ組」の四つに分かれて担当してもらうとの説明を受けました。子どもたちは持ってきたエプロンと、園で用意したネームプレートをつけて準備万端。廊下に出ると、園児たちが「お兄ちゃん、お姉ちゃん!」と大きな声で手を振って大歓迎しています。子どもたちは驚きながらも嬉しい様子。みんな、今日を楽しみにしていたようです。

クラスに分かれて 保育体験開始!

二歳児がいる「そら組」では、近く行われる園の発表会の練習を開始。園児たちが人前でちゃんとお遊戯ができるよう、子どもたちが観客がわりになって見ていました。次に、園児たちに絵本を読み、また別の所では、手づくりのアップリケで色に興味を引かせる遊びなどをしていました。

三歳児の「つき組」は、男の子が多いせいか一番にぎやかな組でした。子どもたちが折り紙で手裏剣の作り方を教えると、熱心に作



自分で作った紙飛行機の飛ばし合い



すっかりうち解けた様子で給食もサポート



高橋徹くん

折り紙の紙飛行機づくりを教えました。誰がいちばん飛ばせるか競争もできて楽しかったです。

川村健太くん

折り紙で手裏剣を作ったらとても喜ばれました。サンタクロースづくりでは、一人ひとりの進み具合を見て教えてあげることができました。

畠山晃希くん

発表会の練習を見たり、折り紙などを教えました。初めは緊張したけどとても楽しかったです。また来たいと思いました。

小田中るりかさん

絵本を読んであげましたが、みんなちゃんと座って聞いてくれてうれしかったです。

みんなの感想

時間がたつにつれ積極的に世話をするようになりました

り始め、飛ばし合いに発展。絵本の読み聞かせをしていたグループも、やがて一緒に遊んでいました。

四歳児の「つばさ組」では、クリスマスに向けてサンタさんの人形づくりに挑戦。小さく切った紙に赤い毛糸を巻き、紙にサンタの顔を書いて貼ります。子どもたちは、糸が絡まって上手にできない園児を手伝うなど、一人ひとりの進み具合を見てあげていました。

五歳児の「にじ組」では、子どもたちが園児の質問に答えながら、折り紙を教えていました。紙飛行機の作り方を教えたら、今度はど

教えることの楽しさと大変さを感じ取る

それぞれの組で、最初は保育士さんの声で動いていた園児たちですが、だんだん子どもたちの呼びかけに注目し、応えるようになっていきました。子どもたちは今回の訪問を通し、小さな存在への思いやりや、コミュニケーションの取り方を学んだようです。また、保育士さんの仕事を間近で見て、その大変さと同時に、働くことの大切さを感じ取っているようでした。

これまで飛ばせるかを競い合うことになり、ホールに移動して競争になりました。

さて十一時を過ぎて、そろそろ給食の時間が近づいてきました。子どもたちはそれぞれの組の、給食の準備を手伝います。「そら組」は部屋で食べますが、そのほかの組はホールに集合。給食の準備や後片付けまで、園児をサポートしながらきちんと終了させました。

母親に優しい 子育て支援

第2集

安心して子どもを
産み育てられる環境とは

子育ては独りで悩まずに

我が国を揺るがす「少子化」の波、その背景には晩婚化と非婚化、そして核家族化の進行が挙げられます。家族の単位はますます小さくなり、しかも孤立する傾向が強まっているのです。

我が町も例外ではありません。子育て中の親を取り巻く環境は決して優しくなく、子育てと育児に対する負担と不安は大きくなるばかりです。結果、普段から近所付き合いをする時間もなく、夫も帰りが遅いなか、一人不安を抱える母親の姿があります。

「この状況をなんとか解決したい」と、地域のボランティアが親子の憩いの場を提供する「子育て支援ひろば」を開設しています。一方で、父親の役割をアピールする男性保育士の活躍があります。

子育てに必ずあるのが、不安と悩みです。町の保育施設や子育て支援センター、ボランティアによる子育て支援団体やサークルなどを上手に利用して、サポートを受けるのも良いでしょう。

男性の本質的な理解が必要

妊娠と出産、これは働く女性の将来を左右する大きな出来事です。「生むなら退職」しかし「収入が途絶える」というジレンマと不安、多くの女性が、そして夫婦が悩む人生の通過点です。「育児を考えるとやはり退職か」と思い詰める母親を救うのが企業による「仕事と子育てを両立するための支援」なのです。

これまでの少子化対策は、行政、家庭、地域が中心となってきましたが、ここに来て、企業側の従業員に対する支援が重要と考えられるようになりました。

今、家庭や職場では、男性が出産や育児について本質的に理解し協力することが必要になっているのではないのでしょうか。

自然体で 活動を続けて10年

私たちが
応援してます
現場の声

01

子育て支援グループ
ひよこひろば
藤原 静子 代表

町内には三つの子育て支援グループ「ひよこひろば」「にっこひろば」「なこひろば」があります。それぞれ趣向を凝らした内容で、月一、二回のひろばを開催。アットホームな雰囲気の中、就学前の子どもと親が安心して集える場を提供しています。

町内で先駆けとなる「ひよこひろば」は、近隣市町村からも大勢の親子が参加しています。人気の秘密は口コミ情報、今年十月で通算二百回目を迎えた「ひろば」の充実ぶりがかがえます。平成九年の初回から

十年、延べ六千三百人余りの子どもたちを受け入れたのは、延べ二千五百人を越すボランティアスタッフの「ふところ」でした。

三代目が交流する
「ひろば」

ひよこひろば代表の藤原



静子さんは「あつという間の十年でした。大変さより楽しさの方が多かったですし、お母さんや子どもたちから笑顔をもらったという感じです。ここは、子どもたち、母親、スタッフの三代目が交流する場だと思っています。集まる人たちがみんなで作りに上げていくもの



木宮神社で七五三のお参りをした後、近くのリンゴ畑で記念撮影



「千歳あめをどうぞ」と全員へ



スタッフによる紙芝居

で、自然体で活動していますし、娘や孫を見ている感覚で、家族のように悩まな

ね」と語ります。
スタッフについては「活躍いただいているのは、三十歳代から七十歳代のボランティア二十人です。今年から男性が一人加わり若い人も増えたので、車の運転やパソコン操作などとても助かっています。年配の人も料理のコツを教え合うなどして交流しています。家では介護などで時間に余裕のない人もいますが、助け合いの気持ちを強く持つ人たちが集まってくれていますし、重荷でなく出会いを楽しんでいるようです。この活動は地域の皆さんのお力添えがあつて成り立っていますので大変感謝しております」と語っていました。
三代目以上と一緒に暮らす家庭や、となり近所の子どもたちが少なくなっているからこそ、こうした交流の場が求められているのではないのでしょうか。
失われつつある温かみや安心感のある人のつながりが「子育て支援ひろば」の魅力なのかもしれません。



11月11日にナックスで行われた「男性保育士連」のファンタジースターショー



士になじみがなく本
当に大丈夫かという
表情を浮かべていま
した。この先輩た
ちもとまどっていた
と思います。育児は
女性という意識がま
だまだ根深いんだな
あと感じました」と、
語っています。

このような経験もあつて以
前勤めていた保育園などの
仲間七人で「男性保育士連」
を二年前に結成。男性保育
士の存在と実力を伝えるた
め、休日などを利用して活
動しています。

後藤さんは「小さいころ
は野球やサッカーをするの
が好きでした。今も思いつき
り外で体を動かしたいとい
う男の子が多く、戦いごこ
ちのような遊びも大好きです。
男が相手だと遠慮なしに思
い切り発散できるようです
し、おんぶやだっこ、かたぐ
るまなどは気兼ねなくせが
まれます」と、その持ち味
を語ります。

それでも、たまには子ど
もたちを知らなければなら
ないこともあります。そ

お父さんたちへのメッセージ

共働きで忙しいと思いますが、子
どもと過ごす時間をできるだけ多
く取ってあげてください。子どもと
いっても集団生活の中で疲れてい
ます。こんなとき、親が一番安ら
げますし、一番甘えたい相手だと思
います。毎日必ず、スキンシッ
プの時間を取ってあげてほしいで
す。お話も聞いてあげてください。
送り迎えのちょっとした時間でも、
だっこなど簡単にできると思いま
す。育児を難しく考えないで、普
段から楽しく子どもと接すればい
いのではないのでしょうか

んなときは、何で悪かったの
か伝えてからしかるように
しているそうです。

五歳児を長く担当してい
た後藤さんは「子どもたち
には、自分自身で考える力
を養って欲しいと思います。今
は必ずそばに大人がいますが、卒園
後は一人で判断しなければ
ならないことが多くなりま
す。また、事前に危険を教
えたり、一見無駄と思える
ことをさせなかつたりするの
は、何事にも関心を示さな
い子どもに育ててしまうと思
うのです。例えば、雪は
冷たいから触らせないので
なく、冷たいと自ら感じら
れるように、事前に情報を
与えず驚きをもって感じる

ことで考えさせたいですね。
子ども同士のいざこざもす
ぐに止めないでしばらく様
子を見るようにしています。
自分たちで仲直りができれ
ば、それはすばらしい経験
になると思うからです」と、
子どもたちに対する強い思
いを語ります。

今年になって、二歳児を
受け持つようになり「この
仕事をしてみています。が、
保育士以外の仕事は考えら
れないです。共働きが増え
ている現代は、男性が育児
に参加するのは当たり前前
のことです。男性保育士も
必要になるのではないでし
うか」と、男性による保育
の重要性を語っていました。



父親役として 自立の手助けを 保育士 後藤 力先生「虹の保育園」

私たちが
応援してます
現場の声

02

保護者の皆さんへのメッセージ

保育所や児童館は育児相談もお受けします。子育てで何かお悩みの人は気軽にいらしてください。みんなで一緒に楽しみながら子育てしましょう



迎の様子。

「昔に比べて兄弟の数が減っていますが、保育所や児童館では、年上の子が小さい子のお昼寝や昼食の手伝いをする縦のつながりがあります。お世話をしたりされたり、時にはけんかをするときもありますが、そ

保育士歴二十年目の中村さんは「最近子どもたちをお預かりする時間を延長し、また、生後六カ月から午後五時ごろになるとほとんどの子どもにお迎えが来て、遅い時間まで利用する人は少なかったのですが、最近では核家族や共働きが増えたせいか、遅い時間の利用者が増えています。午後七時までお預かりする場合も多く、昔と比べて家族と一緒にいる時間が減ってきているのが分かります」そして「親の生活リズムに合わせた夜型の生活になってきているようです」と分析。「早寝早起き朝ごはん、という言葉をよく耳に

しますが、夜型の生活リズムになると朝食をしっかりと取れない子どもや、忙しさからパンと牛乳だけで済ませる場合もあるようです。子どもの成長に朝食は大切ですし、できれば朝食をお勧めしたいですね」と、この二十年間に子どもを取り巻

く生活環境が変化していることを指摘します。また、こんな変化にも気付いていました。「送り迎えに來る協力的なお父さんが増えています。お話を聞くと家事を分担している家庭も多くなっているようです」と、こちらの変化は歓

家族と一緒に時間が減っているのでは

私たちが
応援してます
現場の声

03

保育士

中村さつき先生

「中央保育所」



夜7時まで子どもたちを預かる中央保育所

んな体験も保育施設ならではですね。また、周囲に合わせることを自然に覚え、規則正しい生活を身につけるようになります」と社会性の芽生えを語り、最後に「わたしたち保育士は、親に近づけるように頑張っています。やはり子どもにとっては親が一番です。子

どもがストレスを感じないで安らげるためにも、親子で一緒にいる時間を大事にして欲しいですね。普段忙しくて子どもと接する時間が少ないからこそ、休日は子どものためにたくさん時間を使ってほしいです」と親の大切さを呼びかけています。

仕事は子育ての敵？

…ではないですよね。

子育てを経済的に支えるのが仕事、敵どころか生活全体を受け止める土台のような存在です。

それなのに、時として

「仕事は子育ての敵」のような

言われ方をします。そのため、

仕事と家庭の関係が見

直されるようになって

きました。

仕事と生活の調和（ワーク・

ライフ・バランス）。これからの職場

に欠かすことのできないキーワード

です。今年二月に実施した「結婚・

子育てアンケート」にも、このこと

が色濃く反映されていました。

●仕事をしながらの子育て ●仕事

のためにできない出産 ●出産のため

に辞めなければならない仕事 ●子育て

のための仕事

ここにはたくさんさんのジレンマ、やり

場のない思いがあふれていました。

少子化は

やがて人口減に

少子化が始まっていることは以前から大きな話題になっています。しか



仕事と生活の調和＝ワーク・ライフ・バランス

し、間もなく、子どもだけではなく人口そのものが減少していく、そんな予測があることをご存じでしょうか。地方にあつては、過疎が人口減少の原因と考えられ、人口基盤そのものが揺らいでいることが分かりにくい状況でした。しかし、これからは日本人の人口が減っていくという見方が大方の予想なのです

働き手として母として 将来の鍵を握る女性

我が町はどうでしょう。

昭和五十年以降は順調に人口が増え続けてきた紫波町、しかし、昨年

あたりから陰りが見え始めています。少子化が背景にあるだけに、若い年代層ほど少なくなつていきます。

若者が減少していく、これは将来

の働き手が少なくなつていくことにつながります。そこで注目されるのが、

女性の働き手です。将来の労働力不足が心配されている現在、女性の働

き手がこれからの鍵を握ることになるのです。

「え、でも、ちよつと待つてください。

女性には子どもを産んでもらわなければならぬのでは？」

「そうです。これからの女性には、

もつと働いてもらうほかに、もつと子どもを産んでもらわなければなりません……ね」。

「子どもがいない」では、明るい将来は望めません。

それだからこそ私たちは「女性が働きやすく」「子どもを産み育てやすい」そんな社会を実現しなくてはなりません。働きやすさと産み育てやすさ、この二つを結びキーワードは「お金」と「時間」そして「人」。

子育てに必要な お金と時間、人

これは随分ひどい話ですね。しか

し、日本の将来は、女性の活躍なくして成り立たない、と言い切る人も

います。たしかに「働き手がいらない」「子どもがいない」では、明るい将来は望めません。

それだからこそ私たちは「女性が働きやすく」「子どもを産み育てやすい」そんな社会を実現しなくてはなりません。働きやすさと産み育てやすさ、この二つを結びキーワードは「お金」と「時間」そして「人」。

もちろん、そこには親子を包む「心の支援」も必要なことは言うまでもありません。

支援は

企業メリットのため

「女性が働きやすい職場」ということを一歩進めて「誰もが働きやすい職場」であることを目的に、企業としての取り組みが始まっています。

十年ほど前から始まっているこの動き、しかし企業は福利厚生だけを目的に行動するわけにはいきません。

倒産したら元も子もなくなります。企業には国や団体からの資金的な助成もありますが、もつと多くのメリットを発見して取り組んでいます。そのメリットとは、

①優秀な従業員に続けて仕事をしてもらえる

②優秀な従業員を採用できる

③業務を見直す必要が生じるため、結果としてシステム効率上がる

④従業員の業務に対する集中力が上がるため、仕事効率上がる

⑤従業員が持つ企業への愛着心（求心力）が強まる

⑥企業のイメージアップが果たせる

最も大きなメリットは「勤続」と「求人」。そして、この対象とされているのが「女性」と「若者」です。この両者は、仕事を選ぶ際に時間的

今後は女性も 活躍できる職場でないと

私たちが
応援しています
企業の声

04

(株)東北パワープロジェクト

尾藤 守社長



育児休暇などの制度については、もともと社内規定にありましたし、助成金制度があったのもきっかけの1つです。具体的には「産後休暇」「育児休暇」「短時間勤務」「時間単位休暇」「リフレッシュ休暇」そして新設した「子どもの看護休暇」があり、利用方法などは社内コンピュータでいつでも確認ができます。

これら制度の目的は、できるだけ働きやすい環境を作ることによって優れた人材を確保したいこと、そして長く社にいてもらい部下や後輩の指導に当たっていただきたいことがあります。もちろん会社に興味がなければ残ってもらえませんが、給料や仕事への満足、いわゆる「働きやすさ」や「やりがい」も大事です。当社は精密機械を扱いますが、コンピュータでプログラミングするなど、性別に関係なく働ける業種なのでこの様な制度が実現できるのかも知れません。また、産休から復帰した場合には、もともと実力がある人たちなので元のポジションでも別のポジションでもすぐに対応していただけます。共働きが多いのですから女性だけに負荷をかけないように男性社員も利用できる制度にしているのですが、日本では難しいですかね。男性には、なかなかなじめないようです。男女の差を付けず、女性も活躍できる会社でないとこれからは伸びていきません。当社は育児世代の社員が多く、上司も含めて育児休暇に対する理解があり、介護も視野に入れてお互いにカバーし合う気風があるようです。そして、誰もが責任感があり休んだ分を取り戻そうと頑張ってくれます。制度の実施は、決してマイナスにはなりません。考え方一つではないでしょうか。

モデルケース第1号に



藤原 聖子さん
[入社7年目]

わたしは育児休暇取得者の第1号になったのですが、本当に休んで大丈夫なのか不安でした。担当しているプログラミングは、手元の微妙な操作感覚が重要なので、復帰したときにこの感覚を覚えているかも不安でした。そのため、休暇中は自宅のパソコンにも職場のソフトを入れてもらい、感覚を忘れないようにしていました。今は、短時間勤務をさせてもらっていますが、自分がモデルケースとなったようで、同僚からアドバイスを求められることがあります。実際、今は2人が育児休暇中ですが、社内で子どもを通じた会話が生まれるなど、男女の隔てなく以前よりコミュニケーションが取れるようになりました。また、以前に増して女性の求人が増えていることも聞いています。

中小企業ほど 困難な求人

な自由を優先させる傾向が強いことが指摘されています。

この取り組みは、求人難を予想している企業ほど率先して進めています。

す。大企業ほど取り組みやすいとは言われていますが、実際は三十人規模でも先進的な取り組みをしている企業があります。何よりも、真つ先に求人難を迎えるのは中小企業であることから、早く取り組む必要があるとの指摘があります。

町内企業にも支援の動きがあります。すでに取り組んでいる企業、今後取り組みようとしている企業がありますが、今回はその中から本格的に取り組みをしている(株)東北パワープロジェクトを紹介します。

企業の存続を左右する従業員、し

かし、その元になる求人はますます厳しくなっていくと言われています。その活路として従業員の生活を支援する取り組みを進める、町内にそんな企業が増えるよう、町では施策を展開していきます。

【経営支援部企画課こども室】

循環型のまちづくり 〔18年度実績報告〕

環境に 波を

町では、平成十二年のイベント「環境新世紀」を契機に、環境をより良い姿で未来に残し伝えるため、環境・循環基本計画を平成十三年に策定し、循環型のまちづくりを町民、事業者と協働で進めています。毎月、しわネット「環境のくに紫波」を通じて、活動の一部を紹介していますが、後期基本計画の初年度となる平成十八年度の成果をまとめましたので、お伝えします。

（目標値は平成二十二年度）

有機資源循環

● 町内の家畜排泄物や一部の事業系生ごみを堆肥化し町内農家に販売

（目標）普及農家数 900戸

（実績）普及農家数 347戸

● 学校給食に「えこ3堆肥^{たいひ}」を使い生産した町産の食材を積極的に使用

（目標）米 100%

野菜果樹等 46・7%

安心な食を推進

（実績）米 100%、
野菜果樹等 24・7%

● 消費者がインターネットを通じて、生産者と生産物が見える安心で安全な食の情報「食ナビ」を提供

（目標）登録者 200人

（実績）登録者 89人

● 食の大切さを学ぶ食育に関連する講座を開催

（目標）講座開催数 50回

参加者 1500人/年

（実績）講座開催数 37回

参加者 1305人/年

森林資源循環

● 製材端材・間伐材から木質ペレットを製造し、公共施設を中心に供給

（目標）製造量 250トン

（実績）製造量 97・63トン

● 製材端材・間伐材から粉炭を製造し、土壌改良剤や堆肥発酵促進剤などに活用

（目標）製造量 96・0㎡

（実績）製造量 38・60㎡

● ペレットストーブを設置する町民に補助金を交付

（目標）170台

（実績）9台（累計28台）

● 木造公共施設の整備と木質ペレットボイラーの設置

（目標）公共施設の累計 9棟

（実績）施設 1棟、ボイラー 1基

（累計）施設 7棟、ボイラー 3基

● 町産木材を利用して民間で建物を新増築

（目標）20棟

（実績）8棟

（累計）10棟

無機資源循環

● ごみとして回収される資源をリサイクルするため、資源を保管する施設の設置と地域での資源回収に補助金を交付

（目標）資源物保管庫設置累計 50件

50件

リサイクル活動団体数

90団体

（実績）資源物保管庫設置（累計）

27件

リサイクル活動団体数

89団体

岩手県植樹祭（平成18年6月7日・佐比内「千年の森」）

- 住民との協働によるごみ減量の推進

「紫波町ごみ減量女性会議」と協働で、マイバッグ運動の啓発を中心としたごみ減量推進活動を実施。

地球温暖化防止対策

- 新エネルギーの普及を目指し、保健センターに太陽光発電システム（出力8・40KW）を設置
（目標）3基
（実績）1基（累計2基）

- 太陽光発電導入に補助金を交付
（目標）2500世帯
（実績）19世帯（累計181世帯）

- 地域ぐるみで三カ月間節電活動に取組む十世帯以上の団体に補助金を交付

- （目標）取組団体20団体
（実績）取組団体10団体

環境学習

- 地域での環境保全・学習活動を推進するため、環境マイスター養成事業を実施し十三人を認定
（目標）認定者100人
（実績）認定者13人（累計40人）

環境創造

- 地域の環境保全意識を高めるため、道路・河川などの清掃・美化を行う団体を支援
（目標）15団体
（実績）4団体（延べ16回）、参加240人

このほか循環型のまちづくりをさらに推進する取り組みを紹介します。

- 紫波フルーツパークから新たな特産品として、町産のワイン専用品種のブドウを使用した自醸ワインを販売
（実績）生産量1万7991本（1本750ml入）

- 家庭から出る廃油を回収（十月から各公民館など十一カ所に回収箱を設置）
（実績）387リットル



「水辺の友の会」による太田川清掃

- 星山小学校の新校舎建設に行政や建設業者だけでなく、児童も関わっているという一体感を醸成するため、旧校舎、新校舎、働く人々を児童がデジタルカメラで撮影
（実績）5回実施、参加児童48人（3年生以上）

- 小学校五年生を対象に、家庭や地域での省エネルギーを推進するための実践型学習をキッズISO実施
（実績）取組率99・1%（11校334人）

- 母なる水とその源である森の大切さを学び守っていく活動につなげ、その活動を広く発信するために、森と水をテーマとした講座を開催
（実績）全7回、参加244人（純石けん使用取組み始動）

- 森林の役割や自然との共生について学ぶため「平成の森」で植樹と苗木補強を実施
（実績）参加55人（14年度植樹林に初めて実がついた）

- 佐比内地区「千年の森」にコナラやヤマザクラなど約千本の苗木を植樹（岩手県植樹祭）
（実績）植樹面積2ha、参加800人

NPO法人紫波みらい研究所委託事業

- 環境探検隊を開催
（実績）2回（参加82人）

- 日詰、上平沢の両地区を対象に、地域における伝承を聞き取り保存。

- 地産地消の推進
地産地消・食育の大切さを学ぶ講座を開催。
（実績）2回（参加45人）

- 町内の木造施設（上平沢小学校、虹の保育園など）の見学会を実施
（実績）参加76人

- 彦部地区住民と國學院大学生が、是信房の森で間伐作業を実施
（実績）参加114人

- 全国各地からの「循環型のまちづくり」への視察の受け入れ（日程調整、資料の作成、現地案内など）
（実績）19団体（213人）

このような取り組みにより、循環型まちづくりが住民、事業者、そして行政による協働のもとに着実に進んでいます。

小学6年生が中学校生活を体験 紫波二中で初めての交流授業

紫波第二中学校では、来春入学予定の六年生を対象に、河東地区小中学校交流授業を初めて開催しました。

藤澤浩二校長は「複合学級の小学校もある中で、多くの同級生がいる学校生活を体験してもらい、中一ギャップを解消したい」と説明。彦部小学校の吉田結紀さんは、「緊張したけどみんなと話したら不安がなくなった。また冬に集まるのが楽しみ」と話していました。



来春から同級生となるみんながご対面

11/1

過去最高の1008作品 813人の秀作を披露した芸術祭

中央公民館で第四十一回芸術祭展示部門が三日間開催されました。今年の出展者は八百十三人。出展数も年々増え続けており千八点を数え、絵画や書道、文芸、菊花、盆栽、各種工芸品などどれも力作ぞろいでした。

また、三味線やコーラスなどのロビーコンサートや食事処、スタンブラリーなどのさまざまな企画に、千六百人を超える参観者が秋のひとときを満喫していました。



出展したサークルなどの代表者と関係者による記念撮影

11/2

町内の小中学校を一日開放 好きな時間・学校に授業参観

町で初めて開催した一斉参観日は、休日・一日中どの時間帯でも自由に参観できるとあって、多くの保護者と一般の人が参観していました。日詰小学校三年生の授業を見に訪れた母親は、「受付があるのでも不審者などが入る心配もなく安心ですし、ゆっくりとほかの教室も見られたので来て良かったです」と満足そうでした。日詰小学校では約八割の保護者と一般の人も三十人が訪れました。



時間を気にせずほかのクラスも参観できた一斉参観日

11/4

紫波にも現れたど根性大根？ 民家の玄関先にニヨキニヨキ

日詰地区にお住まいの熊谷祐一さんの玄関先に、何やら大きな葉っぱが出現したのは十月下旬のこと。「もしかして?」と思いそのままにしてみました」と妻の直子さん。近くに畑もなく種が飛んでくることもないような住宅地で、砂利の間から偶然生えてきた不思議な大根。困惑顔の祐一さんとは対照的に、直子さんは「もう少し大きくしてから食べようかな」と、にっこり笑顔でした。



砂利の中から生えてきた大根

11/6

ナメコ栽培に挑戦の水分小 二年越しの収穫に笑顔

水分小学校の六年生十五人が、ナメコの収穫を体験しました。

このナメコ栽培は、町が行う食育の一環として、昨年五月、児童らが五年生の時に植菌したもの。最初不安そうな表情を浮かべていた児童たちも山に到着し、金色に輝くナメコの群生を見ると思わず笑顔。「予想以上に大きくなっていて驚いた」と大山拓実くん。収穫したナメコは、大根おろしとあえて給食時間に味わいました。



大きいもので直径5センチにまで成長したナメコ

11/6

旬の食材を自分たちで料理 体においしい地元食材

日話小学校は、東京分とく山総料理長の野崎洋光さんを講師に招いて食育講座を開きました。

野崎さんによる講座は、長岡、上平沢、星山に続いて四回目。

四年生以上の親子四十七人が参加し、講義の後、カボチャを使った南京奉書焼、大根とブロッコリーのコロコロサラダ、和風麻婆豆腐を調理。四年生の和野彩月さんは、「地元の生きた野菜がよいことが分かりました」と感想を語りました。



調理の方法を説明する野崎さん

11/11

芙咲由美恵さんが母校でライブ なじみの景色が登場する歌熱唱

水分地区出身のシンガーソングライター芙咲由美恵さんのコンサートが紫波第三中学校の体育館で行われました。芙咲さんは、同校の平成十一年度卒業生で、東京のライブハウスを中心に活動中。同校生徒が昨年の修学旅行で、活躍する町民として芙咲さんを訪問。畠山秀一郎校長が後日、芙咲さんの父親と同級生であることを知り、トライアル講演会への出演を依頼し実現したものです。



NHK中学生日記のエンディングテーマに採用された曲も披露

11/16

高校へのステップ!中三スポーツ教室で 体力維持、ストレス発散

町体育協会では、高校受験を控えた中学三年生を対象に、身体能力の向上とストレス解消などを目的としたスポーツ教室を全十二回の予定で開催しています。六年目の今年は十六人が登録。冬季オリンピック複合金メダリストの三ヶ田礼一講師がイメージトレーニングの重要性を講義し、米国でトレーナーの経験を持つ佐々木健次講師が、英語の説明どおりに体を動かすトレーニングを実施しました。



トレーニング中の説明はすべて英語

11/22

栄誉・功績の紹介

町長への報告に訪れた方々を紹介します。

アオダモの植樹で原さんに感謝状

日詰の原修さんは、木製バット素材であるアオダモの苗木を、町内小中学生の野球部員らと一緒に5年間で1万本植樹し山林緑化に貢献、将来に向けた夢を与える活動として認められ、「東北・北海道地区緑化推進協議会長表彰」と「国土緑化推進機構理事長感謝状」を受賞しました。東北・北海道から5人2団体（県内1人）の受賞です。

原さんは、「思いがけない受賞で大変光栄です。全国には多くの緑化貢献者がいる中で、バット素材ということで注目されたのかもしれませんが」と、喜びを語りました。



畠山くんが作文で全国job大賞

片寄の花北青雲高等学校1年畠山正徳さんは、第3回全国高校生・高等専修学校生「私のしごと」作文コンクールで、全国5888作品から2位に値するjob大賞を受賞しました。

畠山さんは、畜産農家として肉牛を育てる父親の姿を題材に、「愛情込めて育てた牛の命をもらって自分たちは暮らしている。かわいそうだけどその分頑張って生きなければならない」という父の言葉をもとに、コンクールのテーマでもある「理想の職業人」に父の姿を描き、自分は「調理師を目指し家族で一貫経営農家を実現させたい」と結び見事栄冠を手に入れました。



児童生徒表彰で町民二人が受賞

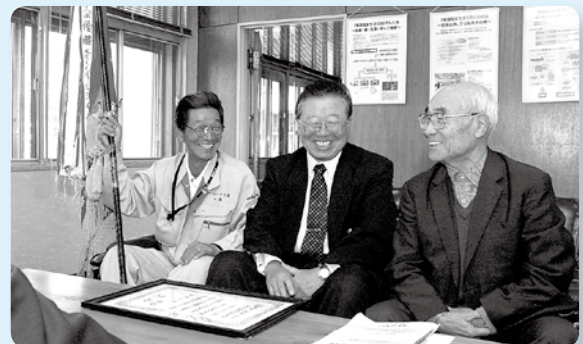
県教育委員会主催の児童生徒表彰に紫波第一中学校1年熊谷和真さんと紫波第三中学校3年藤原香さんの二人が受賞しました。

熊谷くんは、五郎沼でおぼれかけた小学生を救った勇気ある行動に対し善行表彰を、藤原さんは、全日本水の作文コンクールで優秀賞を受賞したことに対し奨励表彰をそれぞれ受賞。昭和63年から年2回行われているこの表彰は、県内児童生徒の模範となるさわやかな行為や活動をたたえるもので、今回は県内から9人6団体が選ばれました。



OB軟式野球で県初優勝

40歳以上の野球大会「第31回岩手県OB軟式野球大会」が10月20日までの3日間、大船渡市を主会場として行われ、紫波郡代表の「オール紫波」チームが初優勝しました。同チームは、朝野球などで活躍する町内の選手を集め昭和63年に結成。深澤剛監督は、「念願がかなって大変うれしい。今年の国民体育大会に選抜された二人が加わり戦力が増した」と勝因を語りました。



町長に報告する左から工藤勇主将、深澤剛監督、長谷川利夫野球協会長

Congratulations!

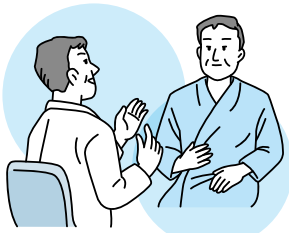
肝がんの予防 ～肝炎ウイルス検査を受けていない人は要注意～

肝がんはほかの臓器のがんと異なり、原因のほとんどが肝炎ウイルス（C型、B型）の感染によるものであることが分かっています。

肝炎ウイルスに感染した原因や時期を特定することは難しいですが、40歳以上の人に感染者が多いという実態があります。

肝がん予防の第一歩は、できるだけ早く検査を受け、感染の有無を確認することです。

そして、感染していることがわかったなら、肝機能検査（血液検査）の結果が正常値の範囲であっても油断は禁物です。必ず医療機関で定期的に血液検査や、超音波検査を受けましょう。定期的に検査を受けることで、肝臓の状態を確認しながら適切な治療を行うことができます。



問合せ 長寿健康課 健康推進室
☎672-4522 有線01-8991

Q 肝臓がんの予防のポイントは？

- A1** 肝炎ウイルス検査を受けたことがない人は、
→できるだけ早く検査を受け、感染の有無を確認しましょう
- A2** 肝炎ウイルスに感染していることが分かっている人は、
→医療機関で定期的に検査し必要な治療を行いましょう。

Q 検査はどこで受けられるの？

- A1** 盛岡保健所（盛岡東警察署向かいの合同庁舎内）
→毎週水曜日（受付午前10～11時）に無料で検査できます。
- A2** 町の総合健診でも受けられます。
→特定健康診査（40～74歳）を受診する際に、希望者には無料で検査します。（20年度は5～6月実施）

食は、元気はつらつの源 ～食品の成分に関心を持ちましょう～

町の
栄養士が
お伝え
します

健康レシピ



【材料（4人分）】

大根…5cm、大葉…8枚、梅干し…4個、
かつお節…2g、みりん…小さじ1
小麦粉、卵、パン粉、揚げ油は適量
付け合わせ（サラダ菜、トマト）

料理のポイント

梅干しの種類により味が違うので、お好みで調整してください。

「大根のサンドフライ」

大根にはデンプンの消化を助けてくれる働きがあります。特に、葉にはビタミンやカロテンを多く含むので、炒め物や浅漬けなどに向いています。

大根は葉に近いほど甘く、生のサラダや煮物に、先端は辛みがあり、おろしなど薬味に適しています。

【作り方】

- ①大根は皮をむき、厚さ2mmの薄切りにする。（16枚切る）
- ②梅干しの種を取り除き、かつお節、みりんを混ぜる。
- ③大根は2枚1組とし、1枚に小麦粉を薄く振り、大葉、梅肉をのせて大根を重ねる。
- ④小麦粉、溶き卵、パン粉の順に衣をつけ、中温でこんがり揚げる。
- ⑤器に盛り、サラダ菜、トマトを添えて出来上がり。

【レシピ提供…紫波町食生活改善推進員協議会 赤石地区会員 高橋静子】



除雪作業のお知らせ

●雪が降る前の準備

1. 庭木の枝が道路に張り出している家は、枝の切り落としにご協力ください。
2. 2年前の大雪で倒れやすくなっている木がまだであると推測されます。道路に面した山林の所有者は事前に確認し処理するようにお願いします。

●除雪作業にあたってのお願い

1. 路上駐車はおやめください。
2. 敷地内の雪は道路に出さないでください。
3. 除雪機械の特性から、除雪した雪が住宅の入り口付近に残ることがありますが、地域の皆さんや各世帯で除去にご協力ください。
4. 吹きだまりなどで通行しづらい所や、凍結により融雪剤が必要な場合はご連絡ください。

●除雪作業の時間帯

深夜から早朝にかけて行う場合は、車道は朝6時30分完了を、歩道は7時完了を目標に作業します。

また、積雪の状況によっては日中でも除雪作業を行います。

※積雪量や積雪の時間帯、地域事情によって完了時間が異なりますのでご理解をお願いします。

●除雪路線と除雪方法

機械作業のため、幅員4m以上の道路を対象に、通勤通学に重要な路線（2車線の基幹路線、歩道）を優先し、そのほかの道路は、生活上利用度が高いと判断される生活路線を対象に行います。

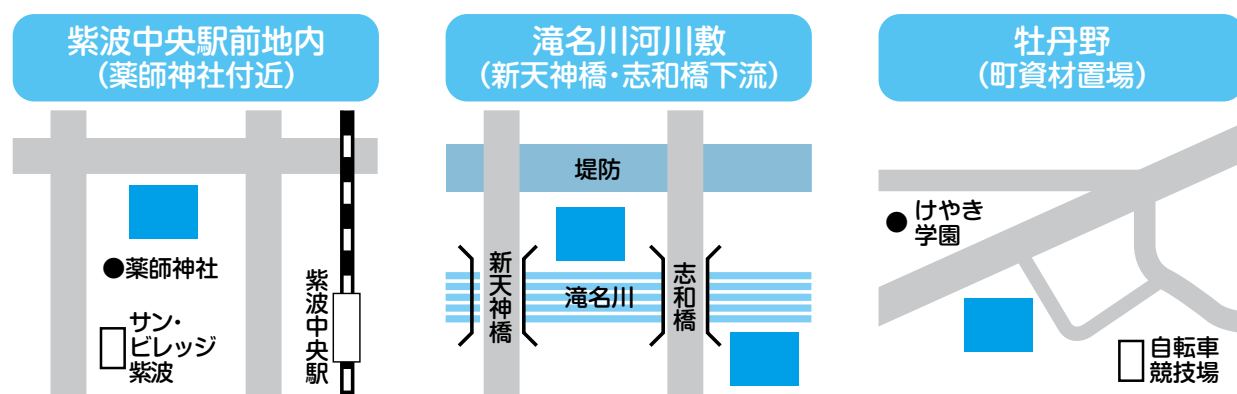
除雪を行う積雪量の目安	除雪を行う路線
おおむね15cm以上の積雪が見込まれるとき	基幹路線、歩道 生活路線
おおむね10cm程度の積雪の場合	基幹路線、歩道

※10cm以下の積雪でも、圧雪、わだちなどの路面状態の悪化を防ぐため、地域ごとの道路状況を判断し生活路線の除雪を行う場合があります。

◆問合せ

町 道 ▶ 土木課 施設管理室
☎672-6877(直通) 有線01-8911
国道4号 ▶ 国土交通省 盛岡国道維持出張所
☎636-0018
国道4号以外の国道・県道 ▶ 盛岡地方振興局土木部
☎629-6646
高速道路 ▶ 東日本高速道路株式会社
☎0570-024-024

雪捨て場のご案内 雪以外は捨てないでください。



※ ■ が雪捨て場です

大晦日はオールナイト営業 ラ・フランス温泉館

31日(月) 午前9時から 1日(火) 午後10時まで

◆年越しイベント

- ①鏡割り＆お酒など振る舞い(1日午前0時～)
- ②振る舞いもち(先着500人、①の後)

◆新春イベント(交流プラザにて)

2日(水)、3日(木) 午後2時～
「黒澤博幸津軽三味線ショー」入場無料
民謡日本一の藤原美幸さんがゲスト出演

◆問合せ ラ・フランス温泉館 ☎673-8555

製造事業所の皆さまへ 統計調査にご協力ください

12月から1月にかけて工業統計調査をします。調査内容は統計法により秘密が厳守されますので、調査員が訪問の際には、正確な記入とご協力をお願いします。

◆問合せ 総務課 総務文書室 ☎672-2111
内線3123

『こころの健康講演会』

「なんとなくだるい」「やる気が出ない」といった症状に心当たりはありませんか？誰もが経験しているこの症状。実はこころの病気が影響しているかもしれません。こころの病気について学んでみませんか。

◆日時 1月15日(火) 午後2時～3時30分
(受付は午後1時30分から)

◆会場 野村胡堂あらえびす記念館

◆講師 平和台病院 院長 伴 亨氏

◆定員 先着60人 入場無料！

◆申込・問合せ 1月10日(木)まで
長寿健康課 ☎672-4522 有線01-8991

固定資産税の変更届はお早めに

固定資産税は、毎年1月1日を基準日として課税します。12月31日までに、建物の一部または全部を取り壊した場合や、土地の現況を変更(雑種地登録の駐車場→宅地、山林→畑)した場合には届出が必要です。ただし、法務局で滅失登記・地目変更登記をした場合は不要です。

◆問合せ 税務課 課税室 ☎672-2111 内線1225

償却資産の申告は1月31日まで

償却資産は、土地や家屋と同じ固定資産税の課税対象で、家屋として課税されている資産を除く構築物・機械・工具・備品・車両(ナンバー登録車両を除く)などです。

◆課税対象 農業や諸営業をし、事業用の償却資産を町内に持つ個人および法人

◆申告期限 1月1日現在の資産所有状況を、1月31日までに申告してください。

前年度申告者には申告書を郵送します(変更がない場合でも提出が必要です)。

◆問合せ 税務課 課税室 ☎672-2111 内線1225

働きながら農業を学ぼう

特別専攻科の学生を募集します。週二日の登校なので、農業に従事しながら勉強ができます。

◆教育内容 一般教養／作物・園芸・畜産から経営内容に応じた課題を解決／社会人講師による講演・現地研修／巡回指導／見学研修など

◆募集定員 20人 ◆修業年数 2年

◆出願資格 高卒(平成20年3月高校卒業見込み含む)、校長が高卒同等程度の学力と認める人

◆出願期間 12月20日(木)～1月29日(火)

◆書類審査・面接 2月4日(月) 午前10時～

◆問合せ 県立盛岡農業高等学校 ☎688-4211

配偶者暴力防止法が改正

配偶者暴力防止法が1月11日から変わります。

◆改正の主な内容

I 保護命令制度の拡充

- 1 生命または身体に対する脅迫を受けた被害者に係る保護命令
- 2 電話などを禁止する保護命令
- 3 被害者の親族などへの接近禁止命令

II 市町村基本計画の策定の努力義務

III 配偶者暴力相談支援センターに関する改正

IV 裁判所から配偶者暴力相談支援センターへの保護命令の通知

◆問合せ 生涯学習課 学習推進室 ☎672-3362
<http://www.gender.go.jp/e-vaw/index.htm>

歴史のミステリーを今に伝える経塚は いにしえ人の思いを封じたまま下界を見下ろす

町の東部、山屋集落から東の峠道を上り、山祇神社を過ぎると間もなく「山屋館経塚」があります。

この経塚は、平成三年から実施された道路改良工事に伴い発見され、平成七年の発掘調査後、約二十メートル北側にある現在の場所に移築復元されました。

経塚とは、経典を埋めた場所のことですが、十世紀後半から造られるようになり、時代により形態はさまざまで、平安時代の多くは、経典を経筒に入れ、それを壺などに納め鏡などの副納品と一緒に地中に埋納しました。

山屋館経塚には四つの遺構があり、出土した愛知県常滑の三筋文壺や石川県珠洲の「波状文四耳壺」、箱状容器の破片などから、平安時代後半に造られたと推測されています。

経塚が造られた目的は、釈迦の死後二千年経つと「仏教は説かれるだけで修行する者や悟りを開く者がいなくなり、やがて経典も失われるので、救いの弥勒菩薩が現れる五十六億七千万年後まで経典を残さなければならぬ」という「末法思想」

に基づくと説や、造仏、造塔、写経などと同じ仏教で言う「作善」の一つではないかという説があります。

それでは、一体誰が山屋の地に経塚を造ったのでしょうか。発掘を行った県文化振興事業団埋蔵文化財センターの「山屋館経塚・山屋館跡発掘調査報告書」には、周辺の状況から比叡氏の関与を推測する記述があり、さらに陶磁器製の壺に直接経巻が入っていたことや、運搬費だけでも高額と思われる壺などの容器を用いていることなどから、この辺りの宗教・経済・政治の中心であった平泉との密接な関係が想像できるとして、奥州藤原氏が十二世紀半ばから後半にかけて行った北上川流域経塚造営事業の一環ではないかと推論を記しています。

経典を残し伝えるために選ばれた山屋の地は、古代の人々には「聖地」のような場所として受け止められていたのかもしれない。

皆さんも山屋館経塚を訪れ、眼下に広がる町の景色を楽しみながら、平安の世に思いをはせてみてはいかがでしょうか。



山屋館経塚



① 積石が造営当時の状態で残されていた4号経塚状遺構（平成7年発掘調査時）

② 4号経塚状遺構から出土した常滑産の三筋文壺



③ 1号経塚状遺構から出土した珠洲産の波状文四耳壺

